

平成28年度 第2四半期 決算概要

連結

	平成28年度 第2四半期 〔自平成28年4月1日 至平成28年9月30日〕	平成27年度 第2四半期 〔自平成27年4月1日 至平成27年9月30日〕	対前年同四半期 増減率
受注高	16,644 億円	17,844 億円	△6.7 %
売上高	17,505 億円	18,820 億円	△7.0 %
営業利益	384 億円	1,159 億円	△66.9 %
経常利益	△18 億円	1,118 億円	—
税金等調整前 四半期純利益	△146 億円	790 億円	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△189 億円	433 億円	—
営業活動による キャッシュ・フロー	△1,183 億円	△271 億円	
投資活動による キャッシュ・フロー	△987 億円	△869 億円	
財務活動による キャッシュ・フロー	1,226 億円	886 億円	
1株当たり 四半期純利益	△5.64円	12.92円	—

注. 記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月31日

上場会社名 三菱重工業株式会社

上場取引所 東名札福

コード番号 7011 URL <http://www.mhi.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 宮永 俊一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営・財務企画部長 (氏名) 鈴木 展雄

TEL 03-6716-3111

四半期報告書提出予定日 平成28年11月7日

配当支払開始予定日

平成28年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト・マスコミ向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,750,523	△7.0	38,407	△66.9	△1,853	—	△18,947	—
28年3月期第2四半期	1,882,067	7.0	115,970	△1.9	111,884	△12.6	43,352	14.0

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △91,686百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 9,218百万円 (△89.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	△5.64	—
28年3月期第2四半期	12.92	12.89

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	5,300,148	1,878,490	29.8
28年3月期	5,503,013	2,000,364	30.5

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 1,579,636百万円 28年3月期 1,679,759百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
29年3月期	—	6.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000,000	△1.2	240,000	△22.5	180,000	△33.9	100,000	56.7	29.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間末から、重要な影響力の喪失のため、三菱自動車工業株式会社を持分法適用の範囲から除外しております。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注) 詳細は、添付資料P. 2「1. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	3,373,647,813 株	28年3月期	3,373,647,813 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	16,038,198 株	28年3月期	16,140,149 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	3,357,684,553 株	28年3月期2Q	3,356,536,968 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しにのみ依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載することとしております。

(その他特記事項)

企業結合の取得対価及び取得原価の配分の見直しに伴い、本決算短信及び添付資料に含まれる比較情報としての平成28年3月期末の連結財政状態に関する一部数値に、当該見直しを反映しております。

(注) 詳細は、添付資料P. 2「1. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)企業結合等関係」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. サマリー情報（注記事項）に関する事項	2
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(2) 企業結合等関係	2
(3) 追加情報	2
2. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) 重要な後発事象	11

1. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算について、当社は当第2四半期連結累計期間における税引前四半期純利益に重要な永久差異を加減算し法定実効税率を乗じて計算し、連結子会社は主として当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 企業結合等関係

取得による企業結合

1. 取得原価の当初配分額に重要な見直しがなされた場合の修正内容及び金額

平成28年3月31日に行われたユニキャリアホールディングス株式会社の取得について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、第1四半期連結会計期間に取得対価の確定及び取得原価の配分の見直しを行いました。

当該見直しによって、第1四半期連結会計期間に修正したのれんの金額は次のとおりです。

修正科目	のれんの修正金額
のれん（修正前）	63,147 百万円
商品及び製品	△2,673
仕掛品	△751
原材料及び貯蔵品	△193
リース資産（有形固定資産）	460
無形固定資産	△17,658
未払金	2,447
繰延税金負債	6,481
非支配株主持分	2,285
修正金額合計	△9,602
のれん（修正後）	53,545

なお、上記の未払金は、取得対価の確定に伴う調整金です。

これらの見直しに伴い、当第2四半期連結会計期間の四半期連結貸借対照表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に当該見直しを反映しております。

また、当第2四半期連結会計期間においても、引き続き無形固定資産の一部について暫定的な会計処理を行っております。

2. 償却の方法及び償却期間

無形固定資産 主として9年間にわたる均等償却

のれん 10年間にわたる均等償却

(3) 追加情報

（連結子会社の事業年度に関する変更）

第1四半期連結会計期間から、Mitsubishi Hitachi Power Systems Europe GmbH など2社は、決算日を12月末日から3月末日に変更し連結決算日と同一としております。この結果、当第2四半期連結累計期間におけるMitsubishi Hitachi Power Systems Europe GmbH など2社の会計期間は9ヶ月となっております。

この決算日変更による当第2半期連結累計期間に与える影響は軽微です。

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1. 客船事業関連損失引当金

客船事業に関しては、既発生の事実に基づく可能な範囲で合理的な損失の引当は完了していると考えておりますが、2番船の建造に関して客先と工期について協議中であることなどから、今後発生する損失額は異なってくる可能性があります。

2. その他

当社及び株式会社日立製作所(以下「日立」という。)は、平成26年2月1日(以下「分割効力発生日」という。)に両社の火力発電システムを主体とする事業を、当社の連結子会社である三菱日立パワーシステムズ株式会社(以下「MHPS」という。)に分社型吸収分割により承継させ、事業統合を行いました。

上記事業統合の一環として、南アフリカ共和国における日立の連結子会社であるHitachi Power Africa Proprietary Limited(以下「HPA」という。)等が平成19年に受注したMedupi及びKusile両火力発電所向けボイラ建設プロジェクト(以下「南アPJ」という。)に関する資産・負債並びに顧客等との契約上の地位及びこれに基づく権利・義務を、HPAから当社の連結子会社であるMitsubishi Hitachi Power Systems Africa Proprietary Limited(以下「MHPSアフリカ」という。)が譲渡を受けました(以下「南ア資産譲渡」という)。

南ア資産譲渡に係る契約においては、分割効力発生日より前の事象に起因する偶発債務及び同日時点において既に発生済みの請求権につき日立及びHPAが責任を持ち、分割効力発生日以降の事業遂行につきMHPS及びMHPSアフリカが責任を持つことを前提に、分割効力発生日時点で遡ったプロジェクト工程と収支見積の精緻化を行い、それに基づき最終譲渡価格を決定し、暫定価格との差額を調整する旨が合意されております。

現時点において、日立との間で南ア資産譲渡の譲渡価格に関する調整は完了しておりません。一方、南アPJは分割効力発生日時点において既に損失が見込まれたプロジェクトであり、MHPSアフリカは、契約に基づき算定される譲渡価格調整金等を日立またはHPAから受領する権利を有しております。平成28年3月31日、当社は、日立に対して、当該譲渡価格調整金等の一部として48,200百万南アフリカランド(1ランド=7.87円換算で約3,790億円)をMHPSアフリカに支払うように請求し、また日立向けの当該請求権の一部を流動資産の「その他」に計上しております。

(連結損益計算書関係)

客船事業関連損失引当金繰入額

客船事業については、プロトタイプ客船建造の困難さが顕在化したことなどにより、大幅なコスト悪化が発生し、平成25年度に64,126百万円、平成26年度に69,534百万円、前連結会計年度に103,911百万円を客船事業関連損失引当金繰入額として特別損失に計上しました。

1番船は本年(平成28年)3月に客先への引渡が完了し、現在2番船の建造が本格化しております。2番船については、配管やダクト取り付け等の船体設備工事がほぼ完了し、今後は電装、塗装、内装工事が中心となりますが、工程、コスト、品質管理に十分配慮して着実に進めております。

このような状況下、内装工事の一部区画において、当初は1番船と同じ国内業者の採用を計画しておりましたが、コスト的には増加するものの工程確保を優先し、当第2四半期において熟練した海外業者へ転注するなど、工事体制の強化を図ってきたことにより、現場費用が増加しました。

また、本年5月以降の1番船の運航実績の中で報告された改善事項等を2番船にフィードバックしたことによるコスト悪化に加え、当連結会計年度に入ってからのも替円高影響も重なり、今後発生する損失額が、既に引当計上した金額を超過することが当第2四半期において見込まれるに至ったため、

当第2四半期連結会計期間末時点で可能な範囲で合理的に見積った追加損失予想額16,481百万円を特別損失として計上しました。

なお、当社は客船事業に関し今後発生する損失を、継続的な事業として発生する損失ではないものと位置付け、特別損失に計上しております。

客船事業に関しては、既発生的事实に基づく可能な範囲で合理的な損失の引当は完了していると考えておりますが、2番船の建造に関して客先と工期について協議中であることなどから、今後発生する損失額は異なってくる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	310,523	201,796
受取手形及び売掛金	1,205,689	1,058,430
商品及び製品	187,330	185,539
仕掛品	992,160	1,085,795
原材料及び貯蔵品	156,507	156,923
繰延税金資産	137,428	150,453
その他	547,848	573,300
貸倒引当金	△7,694	△7,068
流動資産合計	3,529,792	3,405,170
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	397,292	401,087
機械装置及び運搬具(純額)	257,306	249,746
工具、器具及び備品(純額)	56,570	64,958
土地	197,898	197,366
リース資産(純額)	2,873	2,547
建設仮勘定	75,497	64,029
有形固定資産合計	987,440	979,735
無形固定資産		
のれん	136,003	124,239
その他	150,126	143,351
無形固定資産合計	286,130	267,590
投資その他の資産		
投資有価証券	534,287	488,751
長期貸付金	4,946	4,535
退職給付に係る資産	27,459	38,044
繰延税金資産	15,808	13,935
その他	125,601	109,876
貸倒引当金	△8,452	△7,492
投資その他の資産合計	699,650	647,650
固定資産合計	1,973,221	1,894,977
資産合計	5,503,013	5,300,148

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	763,761	648,744
電子記録債務	96,888	96,536
短期借入金	293,131	257,361
1年内返済予定の長期借入金	61,715	38,421
コマーシャル・ペーパー	45,000	222,000
1年内償還予定の社債	20,000	60,000
未払法人税等	18,091	17,058
製品保証引当金	15,128	15,276
受注工事損失引当金	56,866	59,891
客船事業関連損失引当金	72,842	40,522
株式給付関連引当金	98	24
前受金	749,747	736,422
その他	407,108	348,854
流動負債合計	2,600,378	2,541,113
固定負債		
社債	245,000	215,000
長期借入金	387,302	389,345
繰延税金負債	70,385	61,566
株式給付関連引当金	966	1,654
PCB廃棄物処理費用引当金	7,258	7,105
退職給付に係る負債	124,890	136,621
その他	66,467	69,249
固定負債合計	902,270	880,543
負債合計	3,502,649	3,421,657
純資産の部		
株主資本		
資本金	265,608	265,608
資本剰余金	203,951	204,001
利益剰余金	1,173,053	1,127,616
自己株式	△4,771	△4,762
株主資本合計	1,637,842	1,592,464
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40,108	34,165
繰延ヘッジ損益	3,044	5,786
為替換算調整勘定	17,762	△35,843
退職給付に係る調整累計額	△18,998	△16,936
その他の包括利益累計額合計	41,917	△12,827
新株予約権	2,616	2,624
非支配株主持分	317,987	296,228
純資産合計	2,000,364	1,878,490
負債純資産合計	5,503,013	5,300,148

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	1,882,067	1,750,523
売上原価	1,495,252	1,430,204
売上総利益	386,814	320,318
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	△630	44
役員報酬及び給料手当	98,123	103,099
研究開発費	36,949	43,508
引合費用	22,057	22,905
その他	114,344	112,352
販売費及び一般管理費合計	270,844	281,911
営業利益	115,970	38,407
営業外収益		
受取利息	3,613	2,003
受取配当金	5,476	4,754
持分法による投資利益	4,757	—
その他	3,993	6,046
営業外収益合計	17,840	12,804
営業外費用		
支払利息	6,974	5,974
為替差損	4,868	11,845
持分法による投資損失	—	20,376
固定資産除却損	2,679	3,020
その他	7,404	11,848
営業外費用合計	21,926	53,065
経常利益又は経常損失(△)	111,884	△1,853
特別利益		
投資有価証券売却益	—	3,718
固定資産売却益	4,223	—
特別利益合計	4,223	3,718
特別損失		
客船事業関連損失引当金繰入額	30,953	16,481
事業構造改善費用	3,353	—
投資有価証券売却損	2,751	—
特別損失合計	37,058	16,481
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	79,049	△14,615
法人税等	30,989	385
四半期純利益又は四半期純損失(△)	48,060	△15,000
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,707	3,946
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	43,352	△18,947

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	48,060	△15,000
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20,827	△6,426
繰延ヘッジ損益	△1,856	1,450
為替換算調整勘定	△15,278	△68,722
退職給付に係る調整額	3,895	222
持分法適用会社に対する持分相当額	△4,773	△3,208
その他の包括利益合計	△38,841	△76,685
四半期包括利益	9,218	△91,686
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,013	△73,691
非支配株主に係る四半期包括利益	8,204	△17,994

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	79,049	△14,615
減価償却費	75,517	79,872
のれん償却額	5,669	8,046
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△3,688	904
受取利息及び受取配当金	△9,089	△6,758
支払利息	6,974	5,974
為替差損益(△は益)	6,589	6,038
持分法による投資損益(△は益)	△4,757	20,376
投資有価証券売却損益(△は益)	2,751	△3,718
固定資産売却損益(△は益)	△4,223	△334
固定資産除却損	2,679	3,020
事業構造改善費用	3,353	—
客船事業関連損失引当金繰入額	30,953	16,481
売上債権の増減額(△は増加)	158,884	96,884
たな卸資産及び前渡金の増減額(△は増加)	△136,679	△173,883
その他の資産の増減額(△は増加)	△66,379	△12,833
仕入債務の増減額(△は減少)	△87,215	△81,558
前受金の増減額(△は減少)	△25,229	△14,326
その他の負債の増減額(△は減少)	△44,305	△40,638
その他	△4,961	597
小計	△14,108	△110,471
利息及び配当金の受取額	10,373	8,381
利息の支払額	△6,966	△6,096
法人税等の支払額	△16,416	△10,167
営業活動によるキャッシュ・フロー	△27,117	△118,354
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△2,208	△3,794
有形及び無形固定資産の取得による支出	△74,450	△98,267
有形及び無形固定資産の売却による収入	5,753	5,369
投資有価証券の取得による支出	△10,137	△2,967
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,896	6,696
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△6,352	—
貸付けによる支出	△3,122	△3,006
貸付金の回収による収入	2,335	1,743
その他	△1,633	△4,482
投資活動によるキャッシュ・フロー	△86,919	△98,709

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	89,465	160,371
長期借入れによる収入	5,742	590
長期借入金の返済による支出	△2,743	△32,661
社債の発行による収入	20,000	30,000
社債の償還による支出	—	△20,000
非支配株主からの払込みによる収入	3,246	100
配当金の支払額	△20,086	△20,134
非支配株主への配当金の支払額	△7,992	△1,691
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△570	△0
その他	1,581	6,077
財務活動によるキャッシュ・フロー	88,641	122,652
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15,248	△14,729
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△40,643	△109,140
現金及び現金同等物の期首残高	357,349	300,267
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	433	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△1,590	△1,470
現金及び現金同等物の四半期末残高	315,548	189,656

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

重要な子会社等の株式の譲渡

当社は、平成28年10月31日開催の取締役会において、当社の連結子会社である菱重ファシリティ&プロパティーズ株式会社（以下、「菱重F&P」という。）が保有する菱重プロパティーズ株式会社（菱重F&Pの子会社で、当社の連結子会社。以下、「菱重P」という。）の株式を、西日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR西日本」という。）に譲渡するため、JR西日本と株式譲渡契約を締結することを決議し、同日に株式譲渡契約を締結しました。本株式譲渡の概要は以下のとおりです。

ア. 株式譲渡の目的

当社は2015年度からの3カ年にわたる中期経営計画「2015事業計画」の中で財務基盤の強化をはかるためのアセットマネジメントを進めることとしております。このような方針のもと、当社の保有する一部不動産を、菱重Pを承継会社とする吸収分割により、菱重Pへ承継させることとし、また、当社子会社である菱重F&Pのエステート事業（不動産賃貸事業、不動産分譲事業、不動産管理事業）並びに同事業の資産に付随する介護事業及びホテル事業についても菱重Pに承継させました。その上で菱重F&Pが保有する菱重Pの株式をJR西日本に譲渡することとしました。

イ. 株式譲渡の相手先の会社名称

西日本旅客鉄道株式会社

ウ. 株式譲渡の時期

平成29年2月1日

エ. 株式譲渡する子会社の名称、事業内容及び会社との取引内容

名称 菱重プロパティーズ株式会社

事業内容 不動産の所有・売買・賃貸借・管理、介護施設等の経営、ホテル・レストラン・テニスクラブ等の経営等

取引内容 特筆すべき重要な取引関係はありません。

オ. 譲渡する株式の数、譲渡価額、譲渡損益及び譲渡後の持分比率

譲渡する株式の数 175,000株

譲渡価額 970億円

譲渡損益 平成29年3月期連結決算において、関係会社株式売却益として約600億円の特別利益を計上見込みです。

譲渡後の持分比率 30%（当社保有株式）